

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.18

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



魔女ラグになれた夏

作者 蓼内明子
出版社 PHP 研究所
発行 2020年2月
ISBN 978-4569789170

review



この世界に生きづらさを感じている女の子の理想の存在。それが魔女です。魔法は使えないけれど、強靭な理性と意志を持つ、繊細な少数派である魔女という生き方があります。『西の魔女が死んだ』は四半世紀前に刊行され、文庫化、映画化もされた代表的児童文学であり、ここに描き出された魔女というスピリットは後世の作品に大きな影響を与えました。センシティブすぎる自分に挫けそうになりながらも、誇りを持って生きる。現代の作品にも、そんな心の姿勢としての魔女に憧れ、自分を越えていく女の子が数多く登場します。それぞれの魔女たちの姿を、是非、見極めてください。

オリンピックの年に生まれた4歳違いの三姉妹。長女の光希はシドニー、次女の富美はアテネ、三女の岬は北京。そして、東京大会が開催される二〇二〇年がきました。小学六年生の岬は、高校一年生の姉、富美の様子に敏感になっています。姉が何かをしないでかすではないかと岬が覚えた胸騒ぎは、やがて富美の家出という形で明らかになります。この夏休み、オリンピックで沢山の外国人がやってくる東京で、自分の英語力を試してみたいと行動を起こした姉。その姿を見守る大人しい岬の心の中にも、沢山の声があふれてきます。シヨートカットにした自分に、その強さに憧れていたアニメキヤラ、魔女ラグの姿を重ねて、勇気をもつて行動しようとして一歩を踏みだす岬。どこか不思議なユーモアに彩られたユニークな物語です。



西の魔女が死んだ (梨木香歩) 出版 1994年

特集

魔女というスピリット

この世界に生きづらさを感じている女の子の理想の存在。それが魔女です。魔法は使えないけれど、強靭な理性と意志を持つ、繊細な少数派である魔女という生き方があります。『西の魔女が死んだ』は四半世紀前に刊行され、文庫化、映画化もされた代表的児童文学であり、ここに描き出された魔女というスピリットは後世の作品に大きな影響を与えました。センシティブすぎる自分に挫けそうになりながらも、誇りを持って生きる。現代の作品にも、そんな心の姿勢としての魔女に憧れ、自分を越えていく女の子が数多く登場します。それぞれの魔女たちの姿を、是非、見極めてください。

サラと魔女とハーブの庭



作者 七月隆文
出版社 宝島社
発行 2020年10月
ISBN 978-4299009630

review



中学校になじめず不登校になり、田舎でハーブショップを営むおばあちゃんの家で暮らすことになった由花。自分は困った子供なのだと思いつつも、学校での人間関係に適応することで、子供ではいられないようなことを由花は恐れていた。それは自分だけに見える空想上の友だちであるサラが消えてしまったことを意味するからです。魔法のような手際で、気持ちも落ち着かせられるお茶やハーブオイルで由花の心を満たしてくれるおばあちゃん。優雅に接客をし、お茶を振るまう、おばあちゃんは魔女の血を引いているのだと言います。憧れの大人であるおばあちゃんとの静かで穏やかな暮らしは、由花に変化を兆し、やがて成長することの欲びと痛みが由花には訪れます。ずっと自分を支えてくれたサラとの最後の日々が美しく描かれます。

しずかな魔女



作者 市川朔久子
出版社 岩崎書店
発行 2019年6月
ISBN 978-4265057931

review



大人しく繊細で、特別な理由もないうまま学校に通えなくなった中学一年生の草子。ひがな一日を公共図書館で過ごしながら、何もしていない自分に落ち込む毎日。そんな折、本の所在を尋ねたことから、草子は司書の女性、深津さんと関わります。草子に敬語を使い一線を引いて接する深津さんは、ある日、「しずかな子は魔女に向いてる」と書いた不思議なメモを草子に手渡します。まるで啓示を受けたように、草子はこの言葉に惹かれ、この物語を読みたいと深津さんに依頼します。ここから「ふたりの女の子の、まぶしい夏休みの物語」が始まります。友情を守るために自分を越えていく勇気の物語と、その物語を通じて結ばれるもうひとつの友情が交差します。よく見ること。そして考えること。自分を高めていく魔女のスピリットがここにも語られていきます。

大人しく繊細で、特別な理由もないうまま学校に通えなくなった中学一年生の草子。ひがな一日を公共図書館で過ごしながら、何もしていない自分に落ち込む毎日。そんな折、本の所在を尋ねたことから、草子は司書の女性、深津さんと関わります。草子に敬語を使い一線を引いて接する深津さんは、ある日、「しずかな子は魔女に向いてる」と書いた不思議なメモを草子に手渡します。まるで啓示を受けたように、草子はこの言葉に惹かれ、この物語を読みたいと深津さんに依頼します。ここから「ふたりの女の子の、まぶしい夏休みの物語」が始まります。友情を守るために自分を越えていく勇気の物語と、その物語を通じて結ばれるもうひとつの友情が交差します。よく見ること。そして考えること。自分を高めていく魔女のスピリットがここにも語られていきます。

魔女と花火と100万円



作者 望月雪絵
出版社 講談社
発行 2020年7月
ISBN 978-4065195116

review



全校集会で、来年からは文化祭を開催しないという通告を受けた長根中学校の生徒たち。二年生の杏は、波紋が広がる中、クラスに喧騒が起きることさえいやだと感じるデリケートな子でした。魔女を崇拜し、魔法の世界に憧れる杏は、自分の周りの世界をファンタジーに塗り替える空想をノートに綴ることだけを唯一の楽しみにしていました。そのノートを生徒副会長の成田君に見られてしまい、弱みを握られた杏は、文化祭継続のための秘密プロジェクトに参加させられることになりました。そこでは個性的な子たちが集まり、文化祭の予算を自分たちの力で稼いだそうとしていました。仲間たちとの関わりあいの中で、人の内面を知り、いつも人に話を合わせているだけの地味な子であった杏も、現実の中で自分を解放していく方法を見つけ出していきます。

特集

魔女というスピリット



おとなりに引越してきたのは転校生なのに物おじしな少女ルイ。主人公のあたりは、他の子たちと違う彼女の個性に惹かれていきます。クラスのかいじめを見過ごさなかつたために孤立しても、嫌なことには全部、魔女の修業だから平気だと強がるルイ。そんなスピリットを貫く、魔法を使わない魔女たちの物語を集めました。



おとなりは魔女 (赤羽じゅんこ) 文研出版 1997年

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.18

2021年3月1日発行 ● 発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



@tomoostretch

Twitter 連携しています。